

果実および糯米を活用した加工品開発 支援による自社直売所の品揃えの充実

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

果樹専業経営体であるA農業法人では、平成26年1月に直売・加工施設を整備され、生果および加工品を自社直売所で販売されています。しかし、今後さらなる所得向上を図るためには、規格外品を有効活用し、生果の販売が少ない冬季にも販売できる加工品等の品揃えの充実が課題となっていました。そこで、農産普及課では加工品開発について2年間支援を行いました。

【普及活動の内容】

①果実を活用した加工品開発

平成27年度は直売所の品揃えのなかで充実するべき加工品を検討し、「ドライフルーツ」と「なしとレモンのジャム」を提案し、商品化を支援しました。

②「篠原糯」を活用した加工品開発

平成28年度は、当法人が所在する地域の在来品種「篠原糯」と自家農産物の果実を活用した「大福餅」の加工品開発を支援しました。まず、先進地視察により、加工のポイントや必要な加工機器について情報収集し、加工施設がスムーズに整備できるよう促しました。続いて、6次産業化プランナーと連携し、加工技術が習得できるよう支援しました。

【普及活動の成果】

平成27年度の活動の結果、新たに4種類の商品が開発され品揃えが充実しました。売上金額は生果および加工品ともに向上し、前年の107%となりました。また、「大福餅」は平成29年3月から販売を開始され、特産品として地域の活性化にも貢献することが期待されます。今後も、加工品の開発により、さらに所得が向上するよう支援していきます。



写真 6次産業化プランナーによる大福餅の加工技術指導

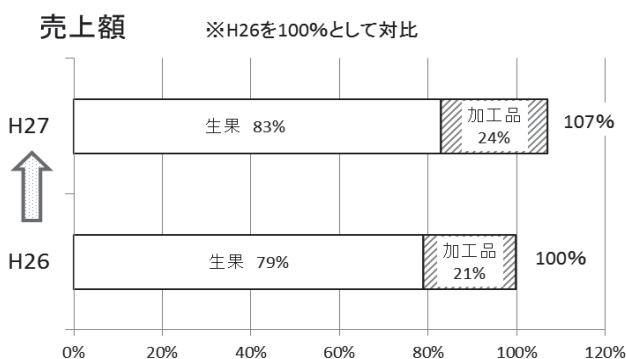


図 売上金額の推移

◎対象者の意見 加工品開発では女性メンバーに意欲的に取り組んでもらうことができた。今後も、生果および加工品ともに売上げを伸ばしていきたい。（法人代表者）